

留学先国名 : チェコ

留学先学校名 : Palacky University Olomouc

留学期間 : 平成 28 年 2 月 6 日 ~ 平成 29 年 2 月 2 日

留学中は、他国の留学生たちと共に大学で授業を受け、週末や長期休暇では様々な場所に旅行に行きました。大阪大学では西洋史を専攻しているため、チェコでの授業は主に歴史関連のものを選択していました。ヨーロッパの国で学ぶヨーロッパ史は、研究対象とする歴史を自国、自文化のものとして取り扱っているため、日本で学んだものと同じテーマの授業でも、それを取り扱う視点やアプローチ方法が違っており、とても良い勉強になりました。日本で西洋史を学ぶ際には、政治史や王室の歴史を中心に学んできましたが、ヨーロッパで学ぶ西洋史は、貴族の日記や聖人伝といったヨーロッパならではの豊富な資料をいかした、民衆からの歴史が中心でした。特に中世史ではキリスト教からアプローチした内容が多く、キリスト教文化の中に生きているからこそ生まれる研究視点であると感じました。

大学生活中、日本人同士で固まると留学の意味が薄れるため、留学生交流団体の企画するイベントに積極的に参加して留学生の友達を作りました。留学当初は相手の英語がわからなかったり、自分の言いたいことがちゃんと伝わらなかったりすることもありましたが、こちらから話しかけると相手はみんな積極的に話を聞いて理解しようとしてくれたため、実践的な語学力は徐々に上達しました。授業で習う事柄や留学生の友人との話で、自分の学力レベルが劣っていると感じることもなく、自分の学力や語学力が日本以外でも通用すると感じ、以前より自分に自信が持てるようになりました。友人間で問題が起きた時や寮の生活環境に不満があった時などに、留学生の友人たちは日本人の友人に比べて、自分の意見をはっきり主張していました。問題が発生した時に、我慢することで妥協せず、臆することなく他人に向き合って積極的に解決しようとする姿勢には、見習うべきものがあるなと感じました。

休暇には留学中にできた友達を訪ねたり、家に遊びに行かせてもらったりしました。チェコ人やポーランド人の家に泊めてもらったり、イスタンブールをトルコ人の友人に案内してもらったりして、様々な国に住む人の生きた暮らしを体験できました。

観光先では、様々な国の史跡、教会、博物館を訪れ、歴史を今につながる生きたものとして実感しました。また、有名な博物館を訪れたり国ごとの博物館の違いに注目したりすることは、大学で学んでいた博物館学の勉強にもなりました。ヨーロッパの国々では、日本より外国人労働者が多く、最近の社会問題となっている移民を見かけたり、ホームレスを見かけたりすることも多かったです。EU 離脱選挙が行われた時にイギリスを旅行してイギリスの今後を決める投票がどのような雰囲気の中で行われたのか知る機会に恵まれたり、予定していたベルリン旅行の二日前にクリスマスマーケットでテロが起こり、不特定多数を標的にしたテロはいつ自分の身に降りかかってもおかしくないのだという恐怖を感じたりすることもありました。このような状況の中、ヨーロッパで一年間暮らすことで、今まさに動いている社会を内側から見る事ができたように思います。

旅行中、独立色の強いヨーロッパ国内の地方を感じるがありました。スペインのバルセロナは、カタルーニャ地方の州都で、首都マドリドとそれが属するアンダルシア地方との違いを色濃くにじませていました。カタルーニャ州旗が街のあちこちに飾られており、博物館では、スペイン語だけでなく、カタルーニャ地方の方言で書かれた案内パネルもありました。ポーランドのシレジア地方でも、シレジアの方言が書かれた缶バッジやマグカップなどのお土産が沢山販売されていました。このように、地方がその土地の歴史や文化に誇りを持ち、独自性をアピールすることで、旅行者たち、ひいては世界に地域の文化を印象付けていることを面白いと感じました。大阪も、これらの地方のように、文化面で様々な発信を行うことで、より存在感を強められると考えます。

留学を終え、以前より自分に自信が持てるようになりました。留学中の経験から自分の学力や語学力が日本以外でも通用すると感じ、人間どこでもやっていける、委縮することはないと思うようになりました。

留学を通じて様々な人に出会い、生き方や働き方は多種多様で、最良の道は決して一つではないと改めて気づかされました。将来の夢はまだ漠然としか決まっていますが、自国文化を離れ今までにない経験をたくさん積むことのできたチェコでの一年間はとても有意義なものでした。今後はこの経験を活かし、日本と海外の交流に役に立つような仕事に就きたいと考えています。

これから留学を考えている人へのアドバイスとしては、留学に不安を感じている人も、まずは飛び出してほしいということです。海外で学び生活することで、間違いなく今までにない価値観に触れることができます。日本以上に多様な生き方をしている人がいて、人生のあり方は色々あるという広い視野を体得できると思います。

とは言っても、やはり英語の勉強は事前にしっかりやっておいた方が良いです。私の大学では、留学するために必要な語学テストのスコアは TOEFL iBT 80 以上でした。私はそのスコアを取得するための勉強のお蔭で、チェコに行っても英語には困らなかったのですが、TOEFL iBT 40 程度のスコアで留学していた人は、授業や日常会話についていけず苦労していました。

日本人留学生が複数人いるとそこそとばかり仲良くしがちですが、それでは別の文化圏からの視点をもった友人と話して視野を広げたり、日常的に英語を話して語学力を向上させたりすることができません。初めは勇気がいると思いますが、積極的に留学生の友達を作るべきです。また、週末や長期休暇に、留学先の国の様々な地方や、近隣の国々に旅行に行くこともおすすめします。ヨーロッパ内での国々の差異や類似点に気づいたり、地方の独自色に目を向けたりすることはとても勉強になります。